

Event Information

●関連イベント

講演会「コレクションを魅せる！テーマ展示の今日的な課題と可能性」

90年代以降隆盛しているコレクションを活用したテーマ展には、各美術館の個性を活かした創意工夫がたくさん詰まっています。本講演会では、松岡剛（広島市現代美術館主任学芸員）氏を迎えて、同氏の手掛けた「美術館の七燈」展や国内外の事例を広くご紹介いただきます。作品収集のエピソードと合わせて、本展覧会の歴史的な背景や位置づけを知るまたとない機会です。

講師 松岡剛（広島市現代美術館主任学芸員） 聞き手 伊藤伸子（宇都宮美術館総務学芸課長）

日 時：10月15日（土）午後2時～4時

会 場：宇都宮美術館 講義室

講 師：松岡剛（広島市現代美術館主任学芸員）

1975年大阪府生まれ。1998年より、広島市現代美術館にて展覧会、作品収集、作品保存などの学芸業務に携わる。近年、「赤瀬川原平の芸術原論展」（2014～15、千葉市美術館、大分市美術館との共同企画）、「殿數侃：逆流の生まれるところ」（2017）、コレクション作品を中心とした開館30周年記念特別展「美術館の七燈」（2019）を担当。現在は2023年3月のリニューアルに向けた準備を進めている。

【事前申込制】

①住所 ②氏名（複数の場合全員分） ③年齢 ④人数 ⑤電話番号 を明記し、

下記のあて先までFAXまたはハガキにてお申ください。 ※10月1日（土）必着

お申込み 〒320-0004 栃木県宇都宮市長岡町1077番地 宇都宮美術館 これ夢展 イベント係 FAXの場合 FAX.028-643-0895

※定員80名。応募者多数の場合は抽選。当落に問わらず美術館から連絡します。

●関連イベント

担当学芸員による見どころガイド

日時：12月3日（土）、10日（土）、17日（土）、24日（土） 午後2時～3時 ※企画展チケットをお求めの上、受付前にお集まりください。

●宇都宮美術館【次回企画展】

同時開催 2023年2月19日（日）～4月16日（日）

「陽 咲二展 混ざりあうカタチ」

「二つの教会をめぐる石の物語」

●栃木県立美術館のご案内

第76回 栃木県芸術祭 美術展 洋画・彫刻・工芸

2022年9月24日（土）～10月6日（木）

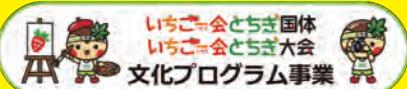
*詳細は栃木県文化協会にお問い合わせください。TEL.028-643-5288

開館50周年記念展 印象派との出会い

—フランス絵画の100年 ひろしま美術館コレクション

2022年10月22日（土）～12月25日（日）

*詳細は栃木県立美術館にお問い合わせください。TEL.028-621-3566



本展および関連イベントにつきましては、新型コロナウイルス感染症の感染予防・拡散防止のために、中止もしくは延期など変更になる可能性があります。なお、開館する場合でも入場制限などの措置を講じる場合がございます。最新の状況は、当館のホームページなどを通じて、隨時お知らせいたします。



宇都宮美術館
Utsunomiya Museum of Art

〒320-0004 栃木県宇都宮市長岡町1077番地
TEL.028-643-0100[代]/FAX.028-643-0895
ホームページアドレス＝<http://u-moa.jp>
Twitter @utsunomiya_moa

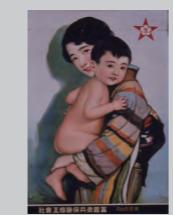
【交通案内】

- JR 東京駅から東北新幹線にて「JR 宇都宮駅」下車（約50分）
- JR 宇都宮駅西口5番バス乗場から関東バス「豊岡台・帝京大学経由 宇都宮美術館」行き終点下車（約25分）
- 東北自動車道「宇都宮インターチェンジ」から約10km、 「鹿沼インターチェンジ」から約14km
- 北関東自動車道「宇都宮上三川インターチェンジ」から約19km

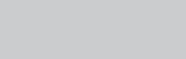
Utsunomiya Museum of Art These Dreams of Times



1997 1998 1999 2000 2001 2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021 2022



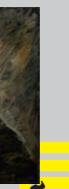
1997 1998 1999 2000 2001 2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021 2022



開館25周年記念 全館コレクション展
●開館時間：午前9時30分～午後5時 「入館は午後4時30分まで」
●休館日：10月曜日・10月11日（火）・11月4日（金）・11月14日（月）・18日（金）・12月29日（木）～1月3日（火）・1月10日（火）
●観覧料：一般＝1,000円(800円)、大学生・高校生＝800円(640円)
中学生・小学生＝600円(480円)
□主催：宇都宮美術館
※（）内は20名以上の団体料金。◎身体障がい者手帳、療育手帳、精神障がい者保健福祉手帳の交付を受けている方とその介護者（1名）は無料。◎宇都宮市在住または在住の高校生以下は無料。
◎毎月第3日曜日（10月16日、11月20日、12月18日、1月15日）は「家族の日」です。高校生以下は半額、高校生以下は無料となります。
○1月3日「文化の日」（宇都宮市民は無料）
■事前申込制（時間指定のお知らせ）▼ 申込方法は、ホームページをご覗ください。

宇都宮美術館
Utsunomiya Museum of Art

本展および関連イベントにつきましては、新型コロナウイルス感染症の感染予防・拡散防止のために、中止もしくは延期など変更になる可能性があります。なお、開館する場合でも入場制限などの措置を講じる場合がございます。最新の状況は、当館のホームページなどを通じて、隨時お知らせいたします。



2022

25

年の軌跡、そしてこれから



2023

2024

2025

2026



※各作品画像のキャプションは本チラシの内側に掲載

Utsunomiya Museum of Art These Dreams of Times



本展覧会は、25周年を迎えた当館の歴史をまとめた年譜と共に、準備室時代の資料などを展示する空間から始まります。続く展示室Ⅰでは、残された資料を基に、1997年の第1回コレクション展の再現を行います。図鑑の1ページのように、作品を見るために純化されたホワイトキューブにおける再現展示は、さながら25年前へのタイムスリップとなることでしょう。

続いて来場者が目にするのは、「時間」という目に見えないものに色と形を与えることで、時計やカレンダーとなったデザイン作品です。風景画を中心としたコーナーでは、山並みなど不变的な光景を捉えた作品群が一堂に会します。さらに、本展は、世界が戦争の恐怖に包まれた1919-1943年の25年に制作された日本とドイツの作品群を集めたコーナー、当館のコレクションの代表的な作家であるマルク・シャガールの生涯を追う特集へと続きます。

さて、上記の当館の歩みとコレクション作品の紹介が、当館の「これまで」であるとしたら、「これから」を見せるのは、3名の招聘アーティストの作品です。大巻伸嗣は、その代表作の1つ、岩絵具によって花々を描き出す作品『Echoes-Infinity』シリーズの新作を制作します。大巻はこのシリーズで、花柄や伝統的な文様を用いて、私たちの文化や記憶を鮮やかに描き出し、それらを見つめなおす空間を作り出しました。今回、外光が差し込む吹き抜けのホールに現れる新作は、美術館のある森と調和し、美しく詩的な考索へと鑑賞者を誘います。高橋銃は、美術作品の保存と活用のジレンマを鋭く提示し話題となった映像作品『二羽のウサギ』に加え、当館での下見から着想した写真の新作を手掛けます。力石咲は、これまでベンチ、建物、樹木などを色鮮やかな毛糸で編み包む作品を発表してきました。今回は、編む行為によってつなぐというテーマを深化させ、糸をほどく事に意味を持たせる新作を構想しています。彼/彼女たちの作品は、コレクションや宇都宮美術館の歴史に新たな視点をもたらし、鑑賞者を美術作品と時間をめぐる深い思索へと導くこととなるでしょう。

宇都宮美術館は、20世紀以降の美術・デザイン作品を中心に約6,800点の作品を収蔵しています。例年3回コレクション展を開催し、様々な切口を設けて作品を展示し、その魅力を紹介しています。本展は、開館25周年の記念事業として、1997年の開館から、現在に至るまで当館が収蔵した名品200点あまりを「時間」というテーマで、多角的に紹介します。また、特別展示として、大巻伸嗣、高橋銃、力石咲の現役アーティスト3名が本展のための新作を発表します。



【特別展示】



大巻伸嗣（おおまき・しんじ）
<http://www.shinjiohmaki.net/>

「存在」とは何かをテーマに制作活動を展開する。環境や他者といった外界と、記憶や意識などの内界、その境界である身体の関係性を探り、三者の間で揺れ動く、曖昧で捉えどころのない「存在」に迫るために身体的時間の創出を試みる。主な個展に、「存在のざわめき」(関渡美術館／台北、2020)、「まなざしのゆくえ」(ちひろ美術館、2018)、「Liminal Air Fluctuation-existence」(Hermèsセザーヴル店／パリ、2015)、「MOMENTAND ETERNITY」(Third Floor-Hermès/シンガポール、2012)、「存在の証明」(箱根彫刻の森美術館、2018)、「ECHOES-INFINITY」(資生堂ギャラリー、2005)など。あいちトリエンナーレ(2016)、越後妻有アートトリエンナーレ(2014-)、アジアパン・アート・トリエンナーレ(2009)、横浜トリエンナーレ(2008)などの国際展にも多数参加。近年は、「freeplus×HEBE×ShinjiOhmaki」(興業太古匯／上海、2019)、横浜ダンスコレクション「Futuristic Space」(横浜赤レンガ倉庫、2019)、「Louis Vuitton 2016-17 FW PARIS MEN'S COLLECTION」(アドレシトロエン公園／パリ、2016)などパフォーマンス作品も多く展開する。東京ガーデンブレイス紀尾井町、IJ1st (オランダ)、Morpheus hotel at City of Dreams (マカオ)、高松港 (香川)などパブリックアートも多く手がけている。



高橋銃（たかはし・せん）
<https://leesaya.jp/artists/sentakahashi/>
1992年東京生まれ、東京在住。2021年、東京芸術大学美術研究科彫刻専攻修了。彫刻表現に要する技術を鍛い、映像作品やインスタレーション、食用の飴や香油など、様々な素材の持つ特性を最大限活かし、作品制作に意欲的に取り組む。これまでの主な展覧会に「二羽のウサギ/Between two stools」(The 5th Floor / 東京、2020)、「Sustainable Sculpture」(KOMAGOME SOKO / 東京、2020)、「CAST AND ROT」(LEESAYA / 東京、2021)。



力石咲（ちからいし・さき）
<https://www.muknit.com/>
1982年埼玉生まれ。多摩美術大学美術学部情報デザイン学科卒業。編む、解くという行為によって一本の糸が変容していく編み物の特性を、人生や自然現象、物事の成り立ちなどと重ね合わせながら制作している。近年の展示に「MIND TRAIL 奥大和 心の中の美術館」(奈良県奥大和エリア/2020-2021)、「道後オンセナート2022」(愛媛県道後温泉地区/2022)など。



出品予定作家

【コレクション作品】

荒井孝、五百城文哉、猪熊弦一郎、上野山清貴、海老原喜之助、恩地孝四郎、亀倉雄策、川上澄生、川島理一郎、佐藤時啓、里見勝蔵、里見宗次、杉浦非水、高橋由一、辰野登恵子、谷中安規、ラウル・デュフィ、難波田龍起、灰野文一郎、バウル・クレー、長谷川利行、ベーター・ベーレンス、松本俊介、松本哲男、マルク・シャガール、やなぎみわ、山田正亮、吉原治良、米陀寛、ルネ・マグリット、ワシリー・カンдин斯基 他

